

所属名	事務事業名	ページ番号
子育て総務課	児童クラブ運営事業	2
子育て総務課	障害児学童保育事業	3
子育て総務課	病児・病後児保育事業	4
子育て総務課	子どもの学習支援を兼ねた居場所づくり事業	5
子育て総務課	発達障がい児支援事業	6
子育て総務課	児童発達支援事業	7
子育て総務課	児童センター管理運営事業	8

令和3年度 事務事業進捗報告シート

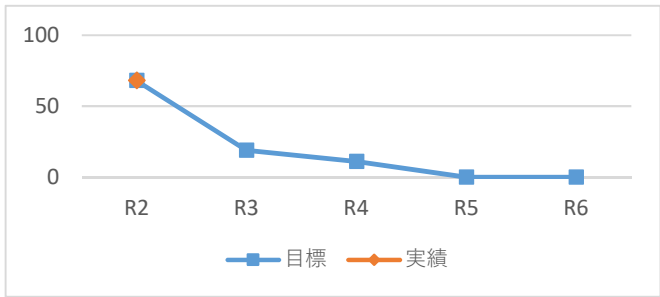
事務事業名	児童クラブ運営事業	事業期間	昭和 52 ~ 年度
担当部署・係名	子育て総務課 児童育成係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	23安心して子育てできる環境の充実	
	基本事業	子育てと仕事の両立のための支援	

1 事務事業の基本情報

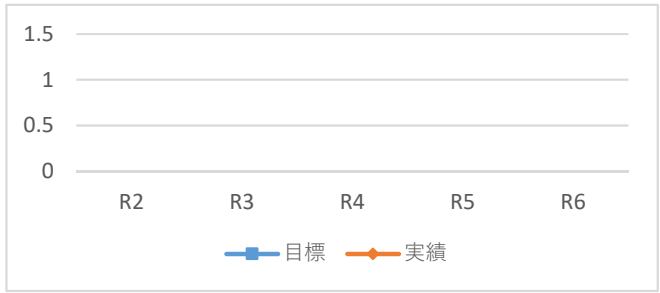
事業概要・目的	児童福祉法の規定に基づき、保護者が就労等により昼間家庭にいないことが常態である小学生の児童を対象に、小学校に児童クラブを設置し指導員を配置して放課後の適切な遊び場と生活の場を与え、児童の健全な育成を図る。				
事業の対象者	保護者が就労等で昼間家庭にいない、市内の小学校に通学する留守家庭児童				
令和2年度主な活動実績	市内35小学校区のうち34校区及び附属小学校で児童クラブを実施し、児童の健全育成を行った。また、兵庫児童クラブ専用館隣に新たに2階建て専用館の整備を行った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	504,105				
うち佐賀市の負担額	90,323				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
待機児童数（毎年度5月現在 小学校1～3年生）						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
68	19	11	0	0		



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
待機児童がいるクラブを優先的に、見込み数に応じて専用区画等を確保し、受け入れ可能数を拡大する。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	障害児学童保育事業	事業期間	平成 13 ~ 年度
担当部署・係名	子育て総務課 児童育成係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	23安心して子育てできる環境の充実	
	基本事業	子育てと仕事の両立のための支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	特別支援学校に就学している児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいない者に対し、授業の終了後に、適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る。				
事業の対象者	保護者が就労等で昼間家庭にいない各特別支援学校に通学する小学1年生から高校3年生までの児童生徒				
令和2年度 主な活動実績	【実施日数】 チャレンジクラブ：278日、大和かがやきクラブ：278日 登録児童数（R2年度） チャレンジクラブ（金立特別支援学校内）：入所6人・一時5人 大和かがやきクラブ（大和特別支援学校内）：入所15人・一時23人				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	34,798				
うち佐賀市の負担額	16,558				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
延べ利用者数（チャレンジクラブ）					人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
724	700	900	900	900	

成果指標②					単位
延べ利用者数（大和かがやきクラブ）					人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
1,591	1,600	2,300	2,300	2,300	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
入学説明会への参加等、引き続き保護者へ広く周知を行う。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	病児・病後児保育事業	事業期間	平成 13 ~ 年度
担当部署・係名	子育て総務課 子育て政策係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	23安心して子育てできる環境の充実	
	基本事業	子育てと仕事の両立のための支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	保護者の仕事と生活の両立の支援及び子どもの健全育成のため、保護者が仕事の都合などで、病中・病後回復期にある子どもを自宅で世話することが難しい場合に、小児科医院に併設した保育室で一時的に保育を行う。				
事業の対象者	生後2か月から小学校3年生の児童				
令和2年度主な活動実績	かるがものへや（おおたゆうこ小児科内）、ぞうさん保育室（橋野こどもクリニック内）の2か所で実施（延べ626人）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	25,773				
うち佐賀市の負担額	9,812				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
延べ利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
626	1,000	1,200	1,200	1,200		

年度	目標	実績
R2		626
R3	1,000	
R4	1,200	
R5	1,200	
R6	1,200	

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載

成果目標達成に向けた対応策等
新型コロナウイルス感染症に伴い利用者数は減少しているが、地域に出向いて季節の感染症等の情報提供や衛生指導を行う中で、病児・病後児保育の周知を図る

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	子どもの学習支援を兼ねた居場所づくり事業	事業期間	平成 29 ~ 年度
担当部署・係名	子育て総務課 子育て政策係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	23安心して子育てできる環境の充実	
	基本事業	子育て環境の整備	

1 事務事業の基本情報

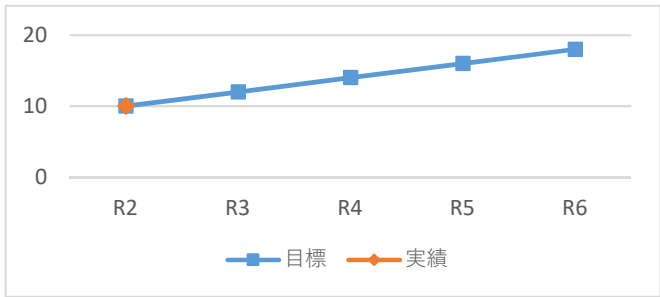
事業概要・目的	家庭環境によってさまざまな困難を抱える子どもに対し、学習支援や遊び場の提供等を通じて地域における居場所をつくり、多面的な支援を行うことで、子どもの心・体・学習の健やかな成長に繋げ、貧困をはじめとした負の連鎖の解消を図る。
事業の対象者	全市民
令和2年度 主な活動実績	居場所づくりの新規立ち上げ及び拡充に伴う補助（上限10万円） 1か所

決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない

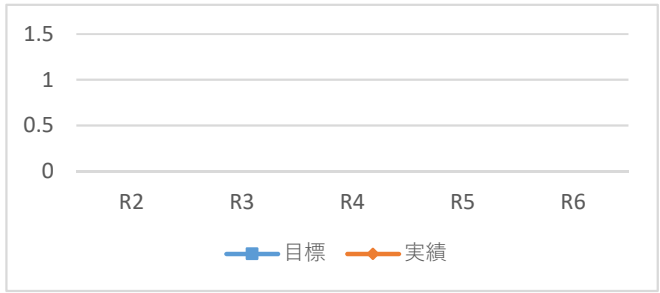
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,351				
うち佐賀市の負担額	2,351				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
こどもの居場所						箇所
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
10	12	14	16	18		



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
より多くの市民が子どもの居場所づくりに主体的に関わる機会が増え、子どもの居場所の増加につながるように、各団体の取り組みや制度の周知に努める。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	発達障がい児支援事業	事業期間	平成 22 ~ 年度
担当部署・係名	子育て総務課 子育て政策係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	16共生社会をめざす障がい者福祉の充実	
	基本事業	地域生活への支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	1歳6か月健診時に発達障がい疑われた児童に対して、日常生活や集団生活への適応を図るために、職員が発達検査や面談等を行うとともに、必要に応じて、専門の医療機関での受診の機会を提供する。				
事業の対象者	発達障がいの疑いがある児童				
令和2年度 主な活動実績	1歳6か月健診時に発達障がい疑われる児童に対する発達検査や面談等の実施 141回				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	4,551				
うち佐賀市の負担額	4,551				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
医療機関受診者						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
20	20	20	20	20		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
早期発見や早期診断の機会を設けることで、早い時期からの支援につなげ、日常生活や集団生活への適応を図る。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	児童発達支援事業	事業期間	平成 29 ~ 年度
担当部署・係名	子育て総務課 子育て政策係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	住み慣れた地域で支え合い、自分らしく自立した生活ができるまち	
	施策	16共生社会をめざす障がい者福祉の充実	
	基本事業	地域生活への支援	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	児童福祉法に基づく市直営の児童発達支援事業所「クラスルームという」において、発達障がいと診断された未就学児を対象とした支援を行うことで、日常生活における基本的な動作、集団生活への適応を図る。				
事業の対象者	佐賀市在住で、発達障がいの診断を受けた就学前の児童とその保護者				
令和2年度 主な活動実績	市直営の児童発達支援事業所「クラスルームという」（佐賀市保健福祉会館4階）で、個別療育及び集団療育を実施 延べ利用者数 1,935人				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	19,125				
うち佐賀市の負担額	0				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
73	73	73	73	73		

成果指標②						単位
延べ利用者数						
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1,935	2,000	2,000	2,000	2,000		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
専門家からのアドバイスや研修をもとに指導員の療育スキルの向上と効率的な運営に努める。

令和3年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	児童センター管理運営事業	事業期間	昭和 60 ~ 年度
担当部署・係名	子育て総務課 児童育成係	担当課長名	山崎 浩二
総合計画における位置づけ	政策	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	
	施策	23安心して子育てできる環境の充実	
	基本事業	子育て環境の整備	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	児童に健全な遊びを提供するための環境づくりと、心身の健康を増進し情操を育てるための環境づくりを目的として児童館を運営する				
事業の対象者	0歳から18歳未満の児童				
令和2年度主な活動実績	児童館・児童センター5館の延べ来館者数：45,138人 (中央児童センター：30,691人/北部児童センター：4,731人/久保田児童センター：1,819人/川副児童館：4,620人/東与賀児童館：3,277人)				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	68,451				
うち佐賀市の負担額	64,013				

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
児童館を利用して楽しかったと回答した児童の割合						%
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	
92	94	96	98	100		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和2年度は基準値となるため、令和3年度の実施結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
新型コロナウイルス感染症に伴い利用者数は減少しているが、来館する児童への遊びの指導及び行事・講座等の実施により、児童に様々な体験の機会を提供することによって利用者満足度を高めるよう努めていく。